

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 3年 2月1日

事業所名：こどもくらぶまじゅたー

	チェック項目	はい	どちらかいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1		・指導訓練室、活動室、ホール等、目的に応じて活用スペースを使い分けている。	・今後も継続して目的に応じて活用スペースを使い分けていく。
	2 職員の配置数は適切である	6	1		・子どもたちがいる時間帯に職員を手厚く配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1		・2階にあるために完全にバリアフリーではないが、事業所内はバリアフリーである。	・階段に手摺、玄関に備などを設置している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	5	2		・申し送りなどで業務改善を図るための話し合いを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2		・全職員で保護者向けアンケートを共有し改善を図っている。	・今後も色々な活動を取り入れていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				・今後も自己評価結果をホームページ上で公開していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		・保護者様及び関係機関などから評価を頂いて業務改善につなげている。	
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		・順番で研修へ参加している。	・資質向上のために事業所内・外の研修へこれからも参加していく。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			・日頃より、保護者様及び関係機関などから情報収集し計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		・専門書やインターネットの新しい情報を取り入れるように努めている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7			・チームで活動プログラムを決めている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			・専門講師を招いたりして、プログラムを工夫している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7				・休日、長期休暇などでは屋外活動を取り入れている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			・集団活動を主としながらも個々のペースを大事にして進めていくように計画している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1		・リーダー職員が中心となり、打ち合わせをしっかりと確認している。	・午後出勤する職員が落ちついて申し送りが出来る環境を整えていく。
	16 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			・職員間で情報共有を図っている。	・当日、振り返りができないときは、後日振り返りをするようにしていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			・職員それぞれの担当を大事に記録し、話し合いを行うための時間を作っている。	
関係機関や保護者との連携	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6	1			
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	7			・全職員の意見をまとめてふさわしい者が参加している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7				
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5		・お迎えの際にしっかりと申し送りを聞くことに努め情報共有を図っている。	・医療ケアの対象となる児童がいないために連絡体制を図っていないが、対象となる児童が来所する際は連絡体制を図っていく。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1		・利用の前に担当者会議を開催し、情報共有を図っている。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	4			・対象となる子どもがいないために連携を図っていないが、今後必要に応じて連携していく。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	1	・他事業所との情報共有会議を通して助言を受けたり、児童発達支援センターの助言を頂いている。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	2		・コロナ禍で難しかったが地域の児童館訪問するなど交流を図っている。	
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	4		・地域の協議会などへ参加している。	
保護者への説明責任等	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			・情報共有会議や送迎の際にその日の出来事を伝えていく。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2		・対応力向上を図るために保護者様のお話をよく聞いて、事業所での成功事例をお伝えしている。	
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1			
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			・いつでも相談が受けられることができるように体制を整えている。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	1		
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1		・苦情受付体制を整え、迅速に対応できるように努めている。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1		・月の行事予定などを毎月配布したりしている。	
	35 個人情報に十分注意している	7			・外部講師を呼んで事業所内研修を実施している。	・来年度の研修計画へ取り入れていく。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			・個々に合わせて対応している。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2		・地域の民生委員、保健師など見学を受け入れている。	
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	2			・各対応マニュアルを再確認し、保護者様などへ周知方法を検討していきます。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			・今年度も防災訓練を実施している。	・来年度も総合防災訓練を実施していきます。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			・外部研修はもちろんの事、内部研修も実施した。	・今後も来年度の研修計画へ取り入れていく。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2			・対象となる子どもがいないために対応していないが、必要に応じて組織として決定し、その子どもや保護者様へ丁寧に説明していく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2			・対象となる子どもがいないために対応していないが、対象となる子どもがいる場合は必要に応じて連携して対応していく。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2		・情報共有を図っている。	